

2023年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月12日

上場会社名 ナノキャリア株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4571 URL <https://www.nanocarrier.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 秋永 士朗
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長 (氏名) 藤本 浩治 TEL (03) 3241-0553
 定時株主総会開催予定日 2023年6月29日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2023年6月30日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（アナリスト及び機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2023年3月期の連結業績（2022年4月1日～2023年3月31日）

（1）連結経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	202	—	△1,246	—	△1,104	—	△1,310	—
2022年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 2023年3月期 △1,262百万円（—%） 2022年3月期 —百万円（—%）

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年3月期	△18.70	—	△27.0	△17.0	△616.3
2022年3月期	—	—	—	—	—

（参考）持分法投資損益 2023年3月期 —百万円 2022年3月期 —百万円

（注）当社は、2022年3月期において、連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期の数値、対前期増減率及び2023年3月期の対前期増減率の記載をしておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	5,784	4,253	73.5	60.61
2022年3月期	—	—	—	—

（参考）自己資本 2023年3月期 4,251百万円 2022年3月期 —百万円

（注）当社は、2022年3月期において、連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期の数値の記載をしておりません。

（3）連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年3月期	△1,087	1,207	—	1,309
2022年3月期	—	—	—	—

（注）当社は、2022年3月期において、連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期の数値の記載をしておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	143	△29.0	△1,042 ～△1,382	— —	△995 ～△1,335	— —	△1,029 ～△1,369	— —	△14.68 ～△19.52

（注）2024年3月期の連結業績予想につきましては、レンジ形式により開示しております。詳細は、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

※ 注記事項

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）株式会社PrimRNA

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（3）発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2023年3月期	70,151,558株	2022年3月期	70,011,258株
2023年3月期	11,427株	2022年3月期	4,826株
2023年3月期	70,091,979株	2022年3月期	69,957,495株

（参考）個別業績の概要

1. 2023年3月期の個別業績（2022年4月1日～2023年3月31日）

（1）個別経営成績

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	202	△23.4	△1,136	—	△995	—	△1,202	—
2022年3月期	264	△15.7	△2,061	—	△1,925	—	△1,881	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期	△17.15	—
2022年3月期	△26.90	—

（2）個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%		
2023年3月期	5,695	77.6	4,422	77.6	63.03	
2022年3月期	7,136	77.6	5,566	77.6	79.08	

（参考）自己資本 2023年3月期 4,420百万円 2022年3月期 5,536百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2023年5月17日にアナリスト及び機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容（音声）については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(会計方針の変更)	12
(セグメント情報等)	12
(1株当たり情報)	12
(重要な後発事象)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による制限緩和により、社会・経済活動の正常化が進んでおり、景気は緩やかな回復基調を維持しております。他方で資源価格の高騰や欧米を中心とした金融引き締め等による景気後退の懸念など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経済環境のもと、当社は、2023年1月26日開催の取締役会において、ビジネスモデルの転換を決定いたしました。これは、2022年、シスプラチンミセル (NC-6004) の第Ⅱb相臨床試験及び、Vasucular Biogenics Ltd. (NASDAQ: VBLT) から国内開発・販売権を取得したVB-111の国際共同第Ⅲ相臨床試験が相次いで開発中止となったことを受け、ビジネスモデルを全面的に見直した結果です。具体的には、mRNA医薬の創薬及び知財獲得を進め、当社がスポンサーとなる臨床開発の開始前に、製薬企業にライセンスアウトを行うことを事業の柱といたします。mRNA医薬の研究開発に6年以上に亘り取り組んできた経験と実績及びこの間に築いた豊富なネットワークに、アクセリード株式会社及び傘下企業との協業をブースターとして加え、複数のパイプラインを同時進行でインキュベートし効率的にmRNA医薬のIPを創出するIP Generatorへと変貌してまいります。

なお、当社は、2021年4月、アクセリード株式会社と共同で株式会社PrimRNAを設立し、核酸医薬の研究開発を実施してまいりましたが、研究開発の進捗により当社の医薬品事業における同社の重要性が高まったことに伴い、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。これにより、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の前年同期比較の記載は行っておりません。なお、新型コロナウイルス感染症の当連結会計年度における業績への影響につきましては、当社は医薬品等の研究開発段階にあるため、軽微であったと判断しております。

(mRNA医薬パイプライン)

COVID-19ワクチンにより急激に大きな市場を獲得したmRNA医薬ですが、既にその他の感染症の予防ワクチン、感染症以外の疾患に対する治療ワクチン、及び組織再生などの疾患治療薬の開発競争が開始されています。当社は、国内企業がmRNA創薬に着手する前から、mRNAを用いた変形性膝関節症に対する再生医薬の開発を推進しており、日本医療研究開発機構 (AMED) 資金を活用し非臨床開発段階まで進めております。今後、新たに製薬企業や非製薬企業、アカデミア等との共同研究を推進し、新規パイプラインの拡充を推進してまいります。

RUNX1 mRNA : アクセリード株式会社と共同で株式会社PrimRNAを設立し、医師主導第Ⅰ相臨床試験開始に向けた研究開発を行っております。変形性膝関節症モデルにおいて良好な再現性試験結果が得られましたので、非臨床安全性試験及び原薬の製造などを現在進めております。

RUNX1 mRNAは、軟骨の増殖・分化に関わる転写因子RUNX1のmRNAを医薬品とするものです。軟骨組織の修復を促進することにより、変形性膝関節症の進行を抑制するとともに疼痛の軽減も実現する革新的な疾患修飾型治療薬を目指し、局所組織再生薬として開発を推進しています。本プロジェクトは、AMEDの医療研究開発革新基盤創成事業に採択されております。

(mRNA医薬以外のパイプライン)

これまで実施してまいりましたパイプラインの開発も継続して行っております。

コムレクス* セオリアファーマ株式会社 (以下「セオリアファーマ」といいます。) と共同で行った国内
 耳科用液1.5% 第Ⅲ相臨床試験において主要評価項目を達成し、セオリアファーマが2022年4月に外耳炎及
 (開発コード び中耳炎を対象に製造販売承認申請を行い、2023年3月、同社は国内製造販売承認を取得し
 ENT103) : ました。今後、薬価収載を経て、2023年度前半の販売開始を見込んでおります。
 コムレクス*(開発コードENT103)は、新規耳科用抗菌薬です。

NC-6100 : 公益財団法人がん研究会有明病院において、再発・進行HER2陰性乳がんを対象に医師主導第Ⅰ相臨床試験が実施されております。

NC-6100は、慶應義塾大学等との共同開発プロジェクトであり、転写因子PRDM14に対するsiRNAのDDS製剤です。

TUG1 : 脳腫瘍の中で最も悪性度が高い膠芽腫を対象とした医師主導第Ⅰ相臨床試験実施に向け、非臨床安全性試験において良好な成績を得て、現在治験薬の準備などを進めております。

TUG1は、長鎖非翻訳RNA TUG1に対するASO (アンチセンスオリゴ) のDDS製剤です。本プロジェクトは、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学との共同研究であり、AMEDの革新的がん医療実用化研究事業に採択されております。

(開発完了及び開発中止したパイプライン)

- NC-6300 : 2021年6月にファスト・トラック指定[※]を受け、米国における血管肉腫対象の例数追加試験において12例中5例でPR(奏功)を確認、2022年4月に全患者への投与が完了いたしました。ライセンス活動を実施していましたが、mRNA医薬のIP創出モデルへの転換に伴い、活動は中止いたしました。
NC-6300は、エピルピシンのミセル化ナノ粒子製剤です。
※ファスト・トラック指定
米国における画期的な新薬について優先的に審査する、優先審査制度です。完治が難しい疾患に対して高い治療効果が期待される新薬を優先的に審査して早期実用化を促すことを目的とした制度です。
- NC-6004 : 2022年4月、第Ⅱb相臨床試験の暫定的な解析において、主要評価項目達成の可能性が低いと判断し、開発を中止いたしました。
NC-6004は、シスプラチンのミセル化ナノ粒子製剤です。
- VB-111 : 2022年7月に受領した国際共同第Ⅲ相臨床試験(OVAL試験)トップラインデータでは、無増悪生存期間(PFS)の解析において、コントロール群に対して統計的に有意な改善が認められず、開発を中止いたしました。
VB-111はアデノウイルスベクターによる遺伝子治療用製品です。

(販売事業の状況)

株式会社アルビオンが販売する美容液エクラフチュール及び薬用美白美容液エクシア ブライトニング イマキュレート セラム用の当社技術を応用した原材料を供給しております。なお、同社との共同開発製品であるスカルプ トータルケア製品「Depth」事業は、2022年12月末をもって全品の販売を終了しました。

また、株式会社エイオンインターナショナルとの契約に基づき、治療法がない領域に新たな医療を届ける一環として、PRP療法を用いた不妊治療をサポートしております。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、化粧品材料供給収入、開発マイルストーン収入及びPRP事業に係る売上等により202,189千円、営業損失は1,246,000千円、経常損失は1,104,580千円、親会社株主に帰属する当期純損失は1,310,976千円となりました。

なお、当連結会計年度におきまして、以下の営業外収益、特別利益及び特別損失を計上しております。

- ・研究開発等に係る補助金収入70,038千円を営業外収益に計上しております。
- ・外国為替相場の変動による為替差益60,464千円を営業外収益に計上しております。これは主に、当社の保有する外貨建預金の評価替えにより発生したものであります。
- ・第20回新株予約権及び第6回転換社債型新株予約権付社債の発行に伴い、第5回転換社債型新株予約権付社債の払込みによる償還を行ったことにより、社債償還益39,030千円を特別利益に計上しております。
- ・第15回新株予約権の権利行使期間満了のため、新株予約権戻入益27,493千円を特別利益に計上しております。
- ・投資有価証券のうち、取得価額に比べ時価が著しく下落し、その回復可能性があるとは認められないものについて減損処理を行ったことによって、投資有価証券評価損268,000千円を特別損失に計上しております。

また、当連結会計年度は連結財務諸表の作成初年度であるため、前年同期との比較分析は行っておりません。

(2) 当期の財政状態の概況

①資産の部

当連結会計年度末における流動資産は4,668,826千円であり、主な内訳は、現金及び預金2,811,624千円、有価証券1,632,079千円等であります。

当連結会計年度末における固定資産は1,115,564千円であり、主な内訳は、投資有価証券886,168千円等でありま

②負債の部

当連結会計年度末における流動負債及び固定負債は合計で1,530,947千円であり、主な内訳は転換社債型新株予約権付社債1,108,916千円等であります。

③純資産の部

当連結会計年度末における純資産は4,253,443千円であり、主な内訳は、資本金119,150千円、資本剰余金5,499,591千円、利益剰余金△1,371,505千円であります。

これらの結果、自己資本比率は73.5%となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、1,309,592千円となりました。キャッシュ・フローの概況は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,087,051千円の支出となりました。研究開発の推進に伴う研究開発費の支出等による税金等調整前当期純損失1,308,486千円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,207,913千円の収入となりました。定期預金の預入による支出1,502,032千円、定期預金の払戻による収入2,447,956千円、有価証券の取得による支出6,240,350千円、有価証券の償還による収入7,000,000千円等によるものです。

(4) 今後の見通し

当社は本年1月に治療モダリティをmRNA医薬に絞り、非臨床段階で製薬企業へライセンスアウトし収益を得るIP創出型のビジネスモデルに転換しました。大きな資金及びリソースの投入が必要な後期臨床開発を行わずにリターンを得る「IP Generator」型企業として成長を目指します。第28期(2024年3月期)におきましては、当社の成長戦略として、「mRNA医薬のIPジェネレーターへのパラダイムシフト」を掲げ、以下の3項目を重点目標としています。

①mRNAシーズの探索と取り込み

mRNA医薬のパイプラインを拡充し、医療の現場から求められるライセンス候補の創製を推進いたします。その為に、mRNA医薬のシーズ或いは技術基盤を保有する世界中のアカデミア、バイオベンチャー等とのオープンイノベーションを進め、速やかにIPを獲得し、ライセンス契約を成立させることを目標としてまいります。

②アクセリードグループとの連携強化

創薬の初期段階から非臨床試験及びmRNA製造の専門家集団であるアクセリードグループとの協業により、迅速にmRNA医薬候補の創製を進めることが可能となりました。また同グループの情報網を利用し、製薬会社の創薬ニーズを正確に把握し、新規mRNA医薬のライセンスアウトの成功確率を高めてまいります。このように、外部リソースの最大限活用により、研究開発に係る固定費を削減し、IP導出までのサイクルを効率的に回し、持続的にマイルストーン収入を得て、さらなる成長を目指します。

③医師主導治験の実施

臨床試験の実施については、競争的資金の獲得或いはパートナーからの開発資金提供を条件として、資金投入の効果を見極めながら当社による実施の可否を判断いたします。この方針に従い、既にAMED資金を獲得した以下の2つのパイプラインについて第28期中の医師主導治験開始を目指します。

- ・RUNX1 mRNAは、アクセリードと共同で設立したPrimRNAが主体となり、変形性関節症(OA)に対する機能維持治療法の開発を目指した研究開発プロジェクトです。
- ・TUG1 ASOは、脳腫瘍の中で最も悪性度の高い膠芽腫に対する治療薬として国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学との共同研究開発プロジェクトです。

これらにより、第28期の研究開発費は、816百万円～1,150百万円を見込んでおります。

上述のとおり、当社はビジネスモデルを転換し、mRNA医薬のIPジェネレーターとしてシーズの探索及び研究開発を推進しております。当該事業に係る研究開発費は、シーズの探索また研究開発の進捗状況により大きく変動が見込まれるなど不確定要素も多いことから、次期の業績予想につきましては、研究開発費予算をレンジ形式により表示しております。これに伴い、連結業績予想の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益につきましてもレンジ形式で表示しております。

(2024年3月期の連結業績予想)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
通期	143	△1,042 ～△1,382	△995 ～△1,335	△1,029 ～△1,369	△14.68 ～△19.52

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、会計基準につきましては日本基準を適用しております。今後のIFRS（国際財務報告基準）の検討につきましては、国内外の諸情勢を踏まえて、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	2,811,624
受取手形	8,470
売掛金	27,500
有価証券	1,632,079
原材料及び貯蔵品	648
その他	188,503
流動資産合計	4,668,826
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物	56,721
減価償却累計額	△56,721
建物及び構築物（純額）	0
機械装置	382,344
減価償却累計額	△382,344
機械装置（純額）	0
その他	12,147
減価償却累計額	△12,147
その他（純額）	0
有形固定資産合計	0
無形固定資産	149
投資その他の資産	
投資有価証券	886,168
その他	229,246
投資その他の資産合計	1,115,414
固定資産合計	1,115,564
資産合計	5,784,390

(単位：千円)

当連結会計年度 (2023年3月31日)	
負債の部	
流動負債	
買掛金	6,183
未払法人税等	5,544
その他	352,373
流動負債合計	364,101
固定負債	
転換社債型新株予約権付社債	1,108,916
繰延税金負債	9,488
資産除去債務	25,997
その他	22,444
固定負債合計	1,166,846
負債合計	1,530,947
純資産の部	
株主資本	
資本金	119,150
資本剰余金	5,499,591
利益剰余金	△1,371,505
自己株式	△27
株主資本合計	4,247,209
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	4,180
その他の包括利益累計額合計	4,180
新株予約権	2,052
純資産合計	4,253,443
負債純資産合計	5,784,390

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	202,189
売上原価	42,590
売上総利益	159,599
販売費及び一般管理費	1,405,599
営業損失(△)	△1,246,000
営業外収益	
受取利息	25,369
為替差益	60,464
補助金収入	70,038
雑収入	143
営業外収益合計	156,016
営業外費用	
新株予約権発行費	5,633
社債発行費	5,671
株式交付費	469
雑損失	2,820
営業外費用合計	14,596
経常損失(△)	△1,104,580
特別利益	
固定資産売却益	4,531
新株予約権戻入益	27,493
社債償還益	39,030
特別利益合計	71,056
特別損失	
固定資産除売却損	50
減損損失	6,912
投資有価証券評価損	268,000
特別損失合計	274,962
税金等調整前当期純損失(△)	△1,308,486
法人税、住民税及び事業税	2,490
法人税等合計	2,490
当期純損失(△)	△1,310,976
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△1,310,976

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純損失(△)	△1,310,976
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	48,135
その他の包括利益合計	48,135
包括利益	△1,262,840
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	△1,262,840
非支配株主に係る包括利益	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	347,832	9,950,079	△4,717,472	△27	5,580,413
当期変動額					
新株の発行	19,150	19,150			38,301
資本金から剰余金への振替	△247,832	247,832			—
欠損填補		△4,717,472	4,717,472		—
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△1,310,976		△1,310,976
連結範囲の変動			△60,528		△60,528
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	△228,681	△4,450,488	3,345,967	0	△1,333,203
当期末残高	119,150	5,499,591	△1,371,505	△27	4,247,209

	その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△43,955	△43,955	30,415	5,566,873
当期変動額				
新株の発行				38,301
資本金から剰余金への振替				—
欠損填補				—
親会社株主に帰属する当期純損失(△)				△1,310,976
連結範囲の変動				△60,528
自己株式の取得				0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	48,135	48,135	△28,362	19,772
当期変動額合計	48,135	48,135	△28,362	△1,313,430
当期末残高	4,180	4,180	2,052	4,253,443

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前当期純損失 (△)	△1,308,486
減価償却費	136
受取利息	△25,369
為替差損益 (△は益)	△59,409
補助金収入	△70,038
株式交付費	469
新株予約権戻入益	△27,493
社債償還益	△39,030
固定資産除売却損益 (△は益)	△4,481
投資有価証券評価損	268,000
減損損失	6,912
売上債権の増減額 (△は増加)	20,192
棚卸資産の増減額 (△は増加)	32,761
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,224
その他	47,710
小計	△1,153,902
利息の受取額	19,161
補助金の受取額	50,180
法人税等の支払額	△2,490
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,087,051
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,502,032
定期預金の払戻による収入	2,447,956
有価証券の取得による支出	△6,240,350
有価証券の償還による収入	7,000,000
投資有価証券の取得による支出	△500,000
その他	2,339
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,207,913
現金及び現金同等物に係る換算差額	59,487
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	180,350
現金及び現金同等物の期首残高	1,097,044
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	32,198
現金及び現金同等物の期末残高	1,309,592

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社の事業は、医薬品等の研究開発及び製造販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

(1株当たり情報)

	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	60.61円
1株当たり当期純損失金額	18.70円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失金額であるため、記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり当期純損失金額	
親会社株主に帰属する当期純損失金額(千円)	1,310,976
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失金額(千円)	1,310,976
普通株式の期中平均株式数(株)	70,091,979

(重要な後発事象)

該当事項はありません。